

## 第3部

# 基本計画

---

基本方針 1	まちのかたちを創る ……	36
基本方針 2	みどりを保つ ……………	48
基本方針 3	やすらぎを守る ……………	58
基本方針 4	賑わいを興す ……………	72
基本方針 5	未来を拓く ……………	88
基本方針 6	みんなで築く ……………	102

---



# まちのかたちを創る

将来都市像の実現に向けて、美しい山や川、街（市街地）、里（集落）等の、今有る良さを活かしながら、市域全体でバランスのとれた進化を目指すためには、地域ごとの特性を活かした土地利用を、戦略的に進める必要があります。

定住や交流を促す市街地の形成や集落環境の整備、交流を支える交通・情報基盤の整備を積極的に推進します。

## 政策 1 計画的な土地利用の推進

### 施策 1 将来都市像の実現に向けた計画的な土地利用の推進

#### 現状と課題

本市は、街（市街地）、里（集落）、工業団地、観光地等が広い市域に点在しています。「進化する自然共生文化都市」の実現に向けて、地域ごとの特性や機能を活かしながら、先進的でバランスのとれた土地利用を図っていく必要があります。

人口の減少や高齢化が進む中、共に支えあい進化する自然共生文化都市を目指すためには、美しく豊かな自然環境を保ちながら、資源や立地条件等を活かした、定住・交流人口の増加、産業が育ち、継続できるよう土地利用を図ることも必要です。

#### 基本的方向

将来都市像の実現に向け「基本構想」で掲げた「都市機能」の実現を目指します。

高知広域都市計画区域マスタープランの区域区分を維持しつつも、市街化調整区域の土地利用については、地域の実情に合った規制緩和を検討します。

既存の市街地及びその周辺は、本市の賑わいを象徴する「定住・交流促進重点エリア」として整備し、定住促進を図ります。

その他の地域についても、既存の集落や観光地等の特性を活かし、地域住民の意向を踏まえて、重点的に定住・交流を促進するエリアを形成し、定住促進を図ります。

産官学民金労言等の協働のもと、地域の自然や既存の土地利用との調和に配慮しながら、市街地形成や産業立地等を模索する等、新しいまちづくり手法の導入を図り、将来都市像の実現を目指します。

#### 施策の内容

##### (1) 土地利用構想の円滑な推進

基本的方向に掲げた土地利用構想の推進を図るとともに、関係する計画の広報に努めます。

##### (2) 新しいまちづくり手法の導入

産官学民金労言等の協働のもと、地域の自然や既存の土地利用との調和に配慮しながら、市街地形成や産業立地等を計画的に推進します。

## 施策2 広い市域のマネジメント体制の構築

### 現状と課題

本市は、県面積の7.6%に及ぶ537.86km<sup>2</sup>の広い市域を有しています。

将来都市像の実現に向けては、市域全体にわたって「基本構想」に即したマネジメントを行い、地域の環境（自然、文化、生活、産業）と調和のとれた計画的な土地利用を図る必要があります。

### 基本的方向

市域の現状把握のためにも、地籍調査を継続し、課税の基礎情報を整備するとともに、土地利用の実態把握に努めます。

国・県の機関、市内の主要団体、学校、市民等と連携しながら、各地域の自然、文化、生活環境、産業活動等にかかわる様々な情報を収集し、地域の現状や課題の把握に努めるとともに、地域環境等をマネジメントしていくためのネットワークづくりを進めます。

収集した地域情報は、まちづくりのための基礎情報として整理し、公開します。

### 施策の内容

#### (1) 地籍調査

地籍調査を継続し、着実に推進します。

#### (2) 地域環境等のマネジメント体制の確立

市役所や支所、その他の主要な公共施設を、地域マネジメント拠点として、市民参加により自然、文化、生活環境、産業活動等、地域の様々な情報を収集・整理し、公開するとともに、地域の安全管理、環境管理、地域課題の解決のためのネットワークづくりを進めます。



## 政策 2 市街地や集落の整備

### 施策 3 賑わいのある市街地の整備

#### 現状と課題

土佐山田町、香北町、物部町の街（市街地）では、活性化に向けた事業やイベント等が行われていますが、空き店舗の増加による商業機能の衰退や、人口減少等による空き家の増加等がみられ、賑わいの消失が危惧されています。

一方、土佐山田町の市街化区域では、南海トラフ地震の発災予測を受け、事業所の立地や住宅建設が増えている傾向にあります。

今後は、全体計画の中で期待されているそれぞれの街（市街地）の位置づけをもとに、より積極的な空き店舗・空き家対策を実施し、賑わいのある街（市街地）の整備に取り組む必要があります。

#### 基本的方向

土佐山田町の市街地は、本市の表玄関として、交通アクセスの優位性を活かし、観光、商業、歴史、文化、交流機能等の充実を図るとともに、都市基盤の整備を進め、宅地や住宅等の円滑な供給を促します。

香北町、物部町の街は、地域住民の生活を支える生活圏の中心として利便性の向上を図るとともに、地域資源を活かした観光や、文化的な交流等の活性化を図ります。

また、それぞれの街（市街地）では、空き店舗や空き家等、既存施設の有効活用を図ることで利便性を高め、まち全体の暮らしやすさの向上を図るとともに、道路や公的施設のユニバーサルデザイン化\*を進め、誰もが活動しやすく、安心して集える、賑わいのあるまちを目指します。

#### 施策の内容

##### (1) 土佐山田町の市街地の整備

土佐山田町の市街地は、本市の表玄関として、商業やサービス業への支援事業を行うとともに、観光・歴史・文化・交流機能等の充実を図りながら、シェアオフィス、IT 関連や高齢者福祉等、新事業の立地等も視野に整備を進めます。

また、市街化区域では、都市基盤の整備を進め、求心力の向上を図ります。

##### (2) 香北町・物部町の街の整備

香北町、物部町の街は、地域住民の生活を支える生活圏の中心として利便性の向上を図るとともに、地域の観光・文化資源を核とした交流機能の強化にも取り組みます。

##### (3) みんなにやさしいまちづくりの推進

それぞれの街（市街地）では、道路や公共施設のユニバーサルデザイン化を進め、誰もが活動しやすく、安心して集える、賑わいのあるまちを目指し、整備を進めます。

(注)ユニバーサルデザイン\*:年齢、文化、言語の違い、障害の有無を問わずに利用することができる施設・製品・情報・サービス等の設計のことをいいます。本計画では、道路の段差解消等、高齢者や障害者が障壁を感じないようにする「バリアフリー化」の概念を含むものとして捉えています。

## 施策4 暮らしやすい集落環境の整備

### 現状と課題

直近の市民アンケートの結果では、現住地に「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と答えた市民が約86%で、定住意向の高さが示されていますが、少子高齢化が進行しています。

20歳から29歳の男女の流出が多く、中山間地域では、コミュニティの維持が困難となっている集落があります。

一方で、本市には、市街地から中山間地域まで、多様な住環境があることから、移住希望者は増加傾向にあります。

地域の子育て世帯や高齢世帯からは、日常の買い物環境や医療施設の充実、公共交通の利便性の向上を求める声が多く寄せられています。

### 基本的方向

地域に魅力を感じて移住してきた新たな市民と、地域で生まれ育った若者世代が交流することにより、お互いに地域の魅力を再認識していただくことで生涯にわたり地域に貢献できる人材育成を図ります。

また、地産地消を促すため産業と商店街の活性化を図り、併せて医師の確保など地域医療の充実を図ります。

そして、地域と商店や医療をつなぐため、地域のニーズに応じた細やかな公共交通網の整備を図るため旅客自動車運送業者（タクシー業、路線バス等）と連携を図ります。加えて、都市公園の整備や待機児童ゼロを継続するなど子育て環境の更なる充実により、本市の魅力を向上し移住定住人口の増加を図ります。

### 施策の内容

#### (1) 地域活動を支える集会所等の整備と活動支援

地域コミュニティの核となる、公会堂、集会所等の整備や地域住民の交流、公益的な活動を支援します。

#### (2) 公園・緑地の整備と管理

子どもたちの安全な遊び場、地域活動や健康づくりや地域の個性を表現する場として公園・緑地の整備を図るとともに、適切な管理に努めます。泰山公園など、利用度の高い公園では、計画的な遊具の点検、メンテナンス等を行い、万全な管理に努めます。

#### (3) 墓地の管理

市営墓地は適切な管理を行います。

#### (4) 転入・移住者等の受入れ体制の整備

転入・移住希望者に対しては「香美市移住定住交流センター」「香美市移住定住推進協議会」の機能を最大限に活用し、移住・定住を促進するとともに、転入・移住者等と集落とをつなぐサポート体制についても強化を図ります。

#### (5) 協働による公共空間の管理

暮らしやすいまちづくりには、幅広い市民参加が欠かせません。公園・緑地・道路・河川等を安全で美しく保つために、市民との協働による公共空間の管理のあり方を検討します。

## 施策5 多様な住宅等の供給

### 現状と課題

少子高齢化による人口減少により、市内全域では空き家が増加しています。

一方で、東日本大震災以降、安心安全な子育て環境や、様々なライフスタイルを求める移住希望者が、世代を問わず増加しています。

こうした移住希望者に対し、それぞれに応じた環境・住まい・仕事に関する情報提供や、支援策等が求められています。

市営住宅については、老朽化した住宅の改修や解体など、財政等の状況を勘案しながら検討していく必要があります。

### 基本的方向

各地域の住宅需給バランスを見極めながら市営住宅の必要性を検討し（ユニバーサルデザイン化への対応も含む）住宅・宅地の適正な供給を図ります。

また、市内全域で空き家が増加していることから、空き家となった住宅は、空き家バンクへの登録を促し、移住・定住促進に活用します。

また、豊富な森林資源の活用を目的とした補助事業により、市産木材を利用した住宅建築の促進を図ります。

### 施策の内容

#### (1) 市営住宅の改修

香美市公営住宅等長寿命化計画に沿って、老朽化した住宅の改修を進めます。

#### (2) ニーズに合った住宅の供給

市民や不動産業者との連携により、空き家情報等の整備を図ります。転入・移住希望者に対しては、「香美市移住定住交流センター」「香美市移住定住推進協議会」の機能を最大限に活用するとともに、窓口を確保して各種相談に応じるなど、ニーズに合った住宅の供給に努めます。また、空き家バンクに登録され、補助要件を満たす物件については、その改修等について支援します。

#### (3) 市産木材の利用促進

市産木材を利用した住宅建築や改築の促進を図ります。

## 政策 3 交流・生活基盤の整備

### 施策 6 基幹交通路の整備

#### 現状と課題

本市を貫く国道195号は、物部川沿いに東西に走り、西は高知市方面と東は徳島県の阿南市方面とを結ぶ広域幹線道路として機能しています。

県道は、高速道路や高知龍馬空港からのアクセス道路として、また、市内外の各地域を結ぶネットワーク軸として重要な役割を果たしており、集落の定住環境の確保に不可欠な路線となっています。

しかし、これらの幹線道路においては、利便性や災害対策上から改良を要する区間や、渋滞の解消を図るべき区間があり、計画的な整備・補修・改修を行うとともに、歩道の整備等、人にやさしい道づくりを進めることも必要です。

#### 基本的方向

国道195号は、本市を一体的に結ぶ広域交流軸であり、災害発生時や緊急時においても最も重要な道路です。このことから、国や県等、関係機関との調整を密に行いながら、必要な整備を進めます。また、中心市街地の渋滞解消や救急・緊急車両等のアクセス経路の確保等の観点からも、市街地周辺の円滑な交通を促す環境整備に向けて、あけぼの街道（山田バイパス）の早期完成を目指します。

県道は、市内と周辺地域との地域間連携軸として、また、高知龍馬空港や高速道路のインターチェンジ等とのネットワーク軸として位置づけ、機能強化を図ります。

また、災害時の対応を想定した複数経路の確保を目的に、物部川右岸の、県道日ノ御子土佐山田線、久保大宮線等の整備・改良を促進します。

#### 施策の内容

##### (1) 国道195号の改良の促進等

国道195号バイパスのあけぼの街道については、地権者や関係機関との調整を密に行いながら、早期完成を目指します。また、国道195号については、自転車等も通行しやすい道路とすることができるよう、その改良について関係機関と協議及び調整を図り、促進に努めます。

##### (2) 県道日ノ御子土佐山田線・久保大宮線の改良

当該路線は、沿線住民の基幹道であるとともに、災害時の対応を想定した複数経路の確保の観点からも重要な路線です。関係機関と協議及び調整を図りながら、車線の拡幅、視距の改善、法面の補強等、優先順位を付けて計画的な改良を行います。

##### (3) その他の県道の改良等

県道は、地域住民の基幹道であるとともに、市内外の各地域を結ぶ重要な道路です。地域や集落の定住環境の確保に不可欠な路線も多いことから、関係機関との調整を図り、その改良を促進します。

## 施策7 暮らしを支える道路網の整備

### 現状と課題

市道は地域住民の暮らしを支える生活道ですが、その改良率は40%未満であり、狭隘道路も多くあります。農道や林道が暮らしを支える生活道として機能している地域では、農道や林道の適切な整備・維持管理体制の構築が必要です。

土佐山田町の市街地では、安全な歩道の確保や、都市計画道路「新町西町線」の早期開通が望まれています。

また、道幅が狭隘な区間は、救急・緊急車両等のアクセス経路・災害発生時の避難ルート確保といった面からも改良を急ぐ必要があります。

山間部では、道幅が狭隘で、かつ傾斜のある林道や市道が多くあり、救急・緊急車両が通行困難なことから、災害発生時に孤立することが懸念される集落もあります。高齢化が進む地域でも、安心して暮らせる生活環境の実現を目指す観点からも、災害対策を重視した道路整備を急ぐ必要があります。

### 基本的方向

市道・農道・林道等は、暮らしを支える道路と位置づけ、適切な整備・維持管理を行います。

土佐山田町の市街地では、都市計画道路「新町西町線」の早期開通を目指すとともに、救急・緊急時の交通アクセスや災害発生時対応も視野に入れた改良・整備を急ぎます。

山間部では、救急・緊急車両の通行が困難な区間の改良や、災害発生時に孤立が懸念される集落への対応も含め、林道整備計画等を中心に災害に強い道路整備を進めます。

### 施策の内容

#### (1) 都市計画道路の整備

都市計画道路「新町西町線」の早期開通を目指すとともに、土佐山田町の市街地にある狭隘道路の改良・整備を図ります。

#### (2) 市道・農道・林道等の整備と維持管理

市道・農道・林道等は、暮らしを支える道路と位置づけ、適切な整備・維持管理を行います。

## 施策8 公共交通手段の維持・充実

### 現状と課題

路線バス等の公共交通は、市民の生活行動の利便や住民福祉の向上はもとより、観光拠点等への周遊の利便の観点からも、その維持・充実が必要です。

しかし、社会状況等の変化に伴い、路線バス事業を営む乗り合いバス事業者の経営は厳しさを増しており、本市では、運行維持が困難となっている路線に対し「香美市生活バス路線運行維持補助金」を交付し、移手段の確保を図っています。

広い市域で公共交通等の空白地域をなくし、市民の生活行動の利便と住民福祉の向上や、観光拠点への周遊等への利便を図るためには、「香美市地域交通対策検討委員会」の「市営バスを含めた公共交通事業の方向性に関する最終答申」に沿った事業の展開を図ることが必要です。

### 基本的方向

公共交通は市民の生活に密着した交通手段として重要な役割を担っており、運行維持が困難となっている路線に対しては「香美市生活バス路線運行維持補助金」を交付し、移手段の確保を図ります。

また、「香美市地域交通対策検討委員会」の最終答申に沿った事業展開を図ることで公共交通等の空白地域をなくし、市民の生活行動の利便と住民福祉の向上や、観光拠点等への周遊の利便を図り、これからの地域における公共交通の役割を明確にします。

### 施策の内容

#### (1) 公共交通手段の維持・充実

路線バス等の利用促進を図るとともに、運行維持が困難となっている路線に対し「香美市生活バス路線運行維持補助金」を交付し、移手段の確保を図ります。

また、「香美市地域交通対策検討委員会」の最終答申に沿った事業展開を図ることで公共交通等の空白地域をなくし、市民の生活行動の利便と住民福祉の向上や、観光拠点等への周遊の利便を図ります。

このほか、香美市地域公共交通会議で、運行ルートの改正等を必要に応じて検討します。



## 施策 9 交通ターミナルの整備と活用

### 現状と課題

JR土佐山田駅は、鉄道利用者の本市への玄関口であり、香美市いんふおめーしょんを設けて観光情報等を発信しています。

また、アンパンマンバスが駐車している時の駅前のバスターミナル付近は、スマートフォンを持った観光客のホットスポットとなっています。

本市の将来都市像の実現に向けては、JR土佐山田駅とその周辺の交通ターミナル機能の向上や、円滑な交通環境づくりに努めるとともに、JR土佐山田駅周辺を賑わいのある交流拠点として整備し、その賑わいを商店街や線路を挟んだ南北の市街地にまで広げるための工夫と努力が必要です。

また、その他の駅や路線バスターミナル及び路線・市営バスの停留所等については、安全で円滑な移動等に向けた適切な整備・管理が必要です。

### 基本的方向

JR土佐山田駅周辺を、本市の玄関口機能を担う、賑わいのある交流拠点として整備するとともに、香美市いんふおめーしょんを活用した情報発信に努めます。

また、都市計画道路「新町西町線」開通を目指すとともに、地域資源を活用した、賑わいのある市街地整備を進めます。

その他の駅や路線バスターミナル及び路線・市営バス停留所等については、安全で円滑な移動等に向けた適切な整備・管理に努めます。

### 施策の内容

#### (1) 交通ターミナルの整備と活用

JR土佐山田駅とその周辺は、列車とバス・タクシー等の円滑な乗換え環境を整備するとともに、市民や観光客の行き交う賑わいのある交流拠点として整備しながら、地域資源を活用した賑わいのある市街地整備につなげます。

#### (2) 交通ターミナル等の整備と管理

その他の駅や路線バスターミナル及び路線・市営バス停留所等については、安全で円滑な移動等に向けた適切な整備・管理に努めます。



©やなせたかし/  
フレーベル館・TMS・NTV

## 施策10 情報通信インフラ\* 整備と活用

### 現状と課題

本市の将来都市像の実現には、様々な情報通信インフラの整備と活用が欠かせません。

本市では、行政や教育、公共施設等で情報化時代に対応した体制づくりを進めるとともに、情報通信インフラ活用の第一歩となるパソコン教室等を行っています。

しかし、インフラ整備が不十分な地域が残されており、住民福祉の向上や移住・定住環境整備の観点からも早急な整備が必要です。

### 基本的方向

地域の特性に応じた情報通信インフラの整備に努めるとともに、それらを活用した行政サービスの向上を目指します。

### 施策の内容

#### (1) 情報通信インフラの整備と活用

地域の特性に応じた情報通信インフラの整備を進めるとともに、それらを活用した行政サービスの拡充を図ります。

#### (2) パソコン教室等の実施

情報通信インフラ活用の第一歩となるパソコン教室等を実施します。

(注)情報通信インフラ\*: インフラはインフラストラクチャーの略で、社会の基盤となる設備のこと。ここでは、電話回線や通信回線などの通信網やデジタル放送も含み、情報通信と捉えています。



## 政策 4 都市イメージの形成

### 施策 11 香美市らしい景観形成

#### 現状と課題

本市では、昔ながらの美しい街や里の景観が残り、物部川が流れる緑の景観をベースに、あじさいロード(国道195号の香北・物部地区の一部区間)、アンパンマンロード(香北の商店街)といった個性ある景観があります。

しかし、都市としてのイメージ形成につながるような景観形成は、これからの課題となっています。

#### 基本的方向

市民が誇りに思い、誰もがあこがれるようなまちづくりの一環として、香美市ならではの自然と文化を活かした快適で魅力的な景観づくりを進めます。

物部川及び国道195号は、広域交流軸として、地域の理解と参加を得ながら美しい景観形成を進めます。

駅や商店街は、来訪者を迎え入れる玄関にふさわしい景観整備を進めます。また、本市の個性と魅力を伝える景観スポットの形成と紹介に努めます。

#### 施策の内容

##### (1) 本市のシンボルとなるイメージ景観の整備

国道195号の沿道は、季節を通じて花が楽しめる景観を整備していくとともに、物部川の景観を楽しむ休憩スポットの整備等、市民との協働で取り組みます。JR土佐山田駅周辺は市の玄関口として位置づけ、香美市らしい景観形成を図る等、高品位な都市の顔づくりを進めます。

##### (2) 地域の個性を表現する景観の整備

その他の幹線道路、商店街とともに、地域の宝である物部川流域の名所、旧跡等、地域の特性を活かし、地域住民の参画を得ながら整備を進め、住む人、訪れる人に魅力的な景観及び交流空間としていきます。

